青和学園たより

No.８

◇青和学園は、義務教育学校・コミュニティ・スクールです。　令和８年３月２５日発行

《学園・地域の教育目標》

自他と地域を愛し、目的と希望を持ち、目標に向かってたくましく生きる、自立した学園生の育成

令和７年度青和学園の教育活動を振り返って

令和７年度最後の学校たよりとなりました。地域の皆様、保護者の皆様、学校運営協議会の皆様、Say“和“サポーターズクラブの皆様方には、本校の教育活動に、そして学園生たちのためにたくさんのご理解とご支援、ご協力をいただきましたこと、心より感謝申しあげます。今後とも引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

『コミュニティ・スクールの特色を生かした教育活動』

本年度も、地域社会に開かれた学校を目指し、コミュニティ・スクールの特色を生かしたキャリア教育の実践を行ってきました。学校運営協議会や Say“和“サポーターズクラブの方々をはじめ、たくさんの地域の方々にご支援をいただき、青和学園ならではの体験や協働活動を行うことができました。これらを通して地域の温かさや身近さを感じ、参加した学園生一人一人が自分たちが住むこの地域について考えることができました。たくさんの方々のご協力に心より感謝しております。

○第 1 ステージ（1～4 年生）では、まちたんけんや地域での学習を通して 1 番身近な地域を知る活動を行ってきました。

○第 2 ステージ（5～7 年生）では、地域の事業所を訪問し、お話をうかがったり、実際に職場体験をさせていただいたりと、地域との協働活動を行い、地域の課題を自分たちの課題ととらえることができました。

○第 3 ステージ(8・9 年生）では、今現在地域が抱える空き家問題について検討したり、ベンチを実際に製作し公園に設置を進めるなど、地域活性化を企図し、自ら見つけた社会課題解決に向かってチャレンジするなど、他者と協働して解決策を探りました。

『学園生が自己有用感を持ち、生き生きとしている学園』

○通常の授業

真剣に取り組むべき時は真剣に取り組み、また楽しむときはおもいっきり楽しみ、日々の授業に取り組

みました。どの教科においても、自分たちで考え、意見を発信し、自分たちでより理解を深める、そんな授業を意識した今年度でした。

○異学年交流

上級生の学園生がリードしたり、手本となったりして活動しています。今年度も宿泊体験学習を５年生と７年生が合同で行い、様々な体験をすることができました。

○行事

９年生がリーダーとなり、文化部門も体育部門も下級生を引っ張りました。また、話し合い活動を通して、９年生が中心となり一つ一つ作り上げる学校祭になりました。

○奉仕活動

校舎内だけでなく、校舎外の周辺も含め、様々な清掃活動に取り組みました。

○学級力を高める学年目標

学級毎に話し合いをおこない目標を設定しました。また、その学級目標を意識し、学級力向上に取り組みました。

○本物に触れる体験

「青の響きコンサート」は今年度で第５回目となり本物の生演奏に触れる貴重な経験となりました。また、スナッグゴルフではプロゴルファーの方々に直接指導してもらいました。もちろんお米、さつまいも、りんごなど様々な農業体験もおこないました。

○自分の言葉で伝える活動

学期の節目や行事、学年を超えた諸活動等の中で、思いを込めて自分の言葉で伝えました。

＜目標実現のために、主体的に考え判断し、行動できる、たくましい学園生＞

本年度も、青和学園の重点項目実現のために、主体的・対話的で深い学びの教育実践を行ってきました。

◇１ステージ◇

１ステージでは、自分たちの手で創る活動を低学年から経験しました。「９年生を送る会」では４年生が、「スマイル３夏まつり」では３年生が、「むかし遊び」や「保育園交流会」では１・２年生が中心となり自分たちの思いを実現するために計画や体験を行いました。一つ一つ自分たちで考え、失敗しながらもそれぞれの思いを実現していました。

◇２ステージ◇

２ステージでは、７年生が職場体験報告会を行いました。自分で選んだ事業所で体験してきたことや考えたこと、体験から得たことを伝える中で改めて活動を振り返ることができました。この報告会に参加した５・６年生は、仕事とは何かを感じる時間となりました。また、６年生は自分たちで自ら調べたり、地域の事業所の方から話を聞いたりして職業について考えました。５年生は自分たちで収穫したお米を販売したり、携わってくださった方をお招きして感謝の会を開催しました。

◇３ステージ◇

３ステージでは、地域との協働や課題発見のためのゲストティチャーをお招きして、情報収集等を行いました。９年生は空き家問題解決に向けて話し合いをおこないました。８年生は、地域の事業者に学びながら、公園にベンチを設置するために様々な取り組みを始めました。多くの方に来校していただき、地域の魅力を再発見するとともに地域の温かさに触れることができました。